

令和5年度兵庫県青少年赤十字研究会報告書



目 次

1. 兵庫県青少年赤十字研究会開催要項	・・・・・・・・	2
2. プログラム	・・・・・・・・	3
3. 青少年赤十字研究推進校研究報告（要旨と発表データ）		
(1)芦屋市立精道小学校	・・・・・・・・	4
(2)丹波篠山市立城南小学校	・・・・・・・・	7
(3)兵庫県立国際高等学校	・・・・・・・・	11
(4)神戸弘陵学園高等学校	・・・・・・・・	15
4. 青少年赤十字研究推進校設置要項	・・・・・・・・	18
5. 青少年赤十字研究推進校一覧（過去3カ年）	・・・・・・・・	19
6. 研究会における発表の風景	・・・・・・・・	20

令和5年度 兵庫県青少年赤十字研究会 開催要項

- 1 趣 旨 青少年赤十字活動を学校生活において実践することにより、児童・生徒の自主性と指導性を養い、世界の平和と福祉に貢献できる青少年育成を目指す。
日本赤十字社兵庫県支部では青少年赤十字研究推進校を設け、研究を委嘱しており、本研究会は研究推進校が実践している研究の成果を発表・共有することにより、各学校での青少年赤十字活動の充実と活性化を図ることを目的とする。
- 2 日 時 令和6年1月28日（日）13:00～15:00
- 3 会 場 日本赤十字社兵庫県支部、各学校
- 4 開 催 形 式 Web形式（Zoomを使用）
- 5 主 催 兵庫県青少年赤十字協議会
兵庫県高等学校青少年赤十字協議会
兵庫県中学校青少年赤十字協議会
兵庫県小学校青少年赤十字協議会
日本赤十字社兵庫県支部
- 6 後 援 兵庫県教育委員会
- 7 研究発表校 芦屋市立精道小学校
丹波篠山市立城南小学校
兵庫県立国際高等学校
神戸弘陵学園高等学校

プログラム

【敬称略】

(1) 開会

開会挨拶 兵庫県青少年赤十字協議会 会長 西田 利也
日本赤十字社兵庫県支部 事務局長 大久保 博章
来賓挨拶 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 指導主事 井俣 由貴史

(2) 青少年赤十字研究推進校活動報告、質疑応答【敬称略】

① 芦屋市立精道小学校

研究テーマ：阪神淡路大震災を語り継ぐ
報告者：塩田 太一、増谷 美侑
井口 知奈美（教諭）、堤 亜美（教諭）

② 丹波篠山市立城南小学校

研究テーマ：「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」
報告者：小田 美絵（教諭）

③ 兵庫県立国際高等学校

研究テーマ：障がい者（聴覚障がい者）が自分らしく暮らせる街づくり
報告者：岩崎 芽実、川合 稀子
安藤 洋之（教諭）

④ 神戸弘陵学園高等学校

研究テーマ：地域との連携による学びの構築について
報告者：細淵 清貴（教諭）

(3) 講評

赤十字活動指導講師/兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 中島 健治

(4) 令和5年度青少年赤十字活動について

日本赤十字社兵庫県支部 事業部奉仕課 主事 佐藤 由利菜

(5) 閉会

芦屋市立精道小学校 「阪神淡路大震災を語り継ぐ」

《活動の要旨》

今から 29 年前、1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分マグニチュード 7. 3 の兵庫県南部地震が起こりました。私たちの芦屋市立精道小学校校区は 7 割が全半壊という被害を受け、その地震により、8 人の子どもと 6 人の保護者が亡くなりました。また、当時はまだ小さく、精道小学校に入学してくるはずだった 15 人の子どもも亡くなりました。

精道小学校では、この日を忘れないために、各学年 1 年間を通して防災について学習をします。そして、毎年 1 月 17 日には全校生で追悼式を行っています。

6 年生は、12 月に精道小学校で語り継がれていることを 5 年生に伝える“語り継ぐ会”を行います。そのために、6 年生は 11 月ごろから精道小学校で亡くなった 8 人について調べ、当時のことを知るたくさんのゲストティーチャーの方々からお話を聞きました。そしてゲストティーチャーの話を聞いて学んだことをもとに、各クラスで「語り継ぎたいこと」「語り継がなくてはいけないこと」をまとめいき、発表しました。

追悼式では、校長先生や遺族の方が追悼の辞を述べられ、児童の代表による話があり、全校生で作った折鶴とともに、手作りの献花を全校生一人一人が供えます。

私たち 6 年生は、12 月に 5 年生に対して精道小学校で語り継がれていることを 5 年生に伝える“語り継ぐ会”を行います。そのために、6 年生は 11 月ごろから精道小学校で亡くなった 8 人について調べ、当時のことを知るたくさんのゲストティーチャーの方々からお話を聞きました。そのゲストティーチャーとは、遺族の方、教え子を亡くされた幼稚園の先生、当時小学校で働いていた先生、精道小学校で語り継ぐ会を行ってきた卒業生などです。様々な立場の方から話を聞くことで、被災者の思いをしっかりと考えることができました。そしてゲストティーチャーの話を聞いて学んだことをもとに、各クラスで「語り継ぎたいこと」「語り継がなくてはいけないこと」を出し合い、自分の想いをのせて大事に語り継いでいってほしいことを中心に伝えました。

これからの災害に対する備えだけでなく、亡くなった方や被災者の思いに心を寄せて、自分なりにしっかりと考えたことを伝えることで、次の年、最高学年になる 5 年生に思いをつなぐことができると思います。

また、精道小学校には、市内でも唯一の防災委員会というものがあります。精道小学校に残されている 1. 17 に関するものを大切に残していく活動を行ったり、全校生の防災意識を高めるために活動を行っています。毎日の当番として、祈りの碑の掃除や、花壇の手入れ・ホールの震災展示の整理などを行っています。今年は臨時活動として、防災スタンプラリーを行うことを企画しています。防災委員会の活動を通じて全校生の防災意識が高まるといいなと思っています。

これからも、精道小学校で代々語り継がれてきたことを中心に震災のこと・防災のこと・減災のことを次の世代へとつなげていきたいです。



防災教育の取り組み

芦屋市立精道小学校

精道小学校について

- ▶阪神・淡路大震災により、校区の7割が全半壊という被害を受ける
- ▶8人の子どもと6人の保護者、精道小学校に入学してくるはずだった15人の子どもも亡くなる
- ▶震災を忘れないために、各学年が防災学習をし、1月17日には追悼式を行っている

6年生が5年生に語り継ぐ



語り継ぐ会までに各学年が行ってきたこと



語り継ぐということ



亡くなった人たちのことを未来へ



5年生に伝えたいこと

- ・震災を語り継ぐとは、震災で亡くなった人たちの生きた証を伝えるということ
- ・精道小学校で学んできたりお話を聞いたりしたことを今度は私たちが伝える

これからの自分

- ・精道小学校で一年生から六年生まで学んできたことを、未来でストップさせないで、これからも続いていけるように、伝えていきたい
- ・防災について知る機会がたくさんあったから、自然災害など予測できないことでも日頃の備えがとても大切だと伝えたい



5年生に伝えたいこと

残された人たちは亡くなった人たちのことをたくさんの人たちに伝え、次の世代に伝えたいと思っている。

これからの自分

これから自分は、残された人たちの思いをしっかりと知り、理解した上で次の世代に伝えていき、その人たちを忘れないようにしていかなければならないと思った。

被災者や亡くなった方の
思いに心を寄せる



次の世代へと思いが
つながっていく

防災委員会 常時活動



ご清聴ありがとうございました

丹波篠山市立城南小学校

「気づき・考え・実行する ～ふるさと防災学習～」

1 気づき・考える

(1) 丹波篠山市の災害

社会科の「自然災害から人々を守る活動」という学習を発展させ、ふるさとの防災を考える学習を進めた。本校がある丹波篠山市では、これまでも地震や洪水などさまざまな自然災害が起きている。地震については、阪神淡路大震災を経験している。しかし、調べていると、この地域で一番多い被害は大雨のために起こる土砂災害や川の氾濫、浸水被害であることに気づくことができた。

(2) 近隣地域の災害と対策

丹波篠山市の中心を流れる篠山川の京口橋付近では、雨による川の氾濫の歴史がある。災害の歴史をたどると、1907年台風の被害で京口橋北側半分が崩壊したことが記録されている。その後も災害が相次いで起こっている。この災害に対する対策について市の防災課の方にお話を伺うことにした。災害の度に浸水被害があれば消防車で水を吸い上げ、川に戻っていた。しかし、地域住民と丹波篠山市が話し合いを進められ大型ポンプを設置し、2019年7月に運転を開始。その後、浸水被害は出ていない。このように地域が一体となってみんなで考え、話し合うことで災害を少しでも減らすことができるという事実を知ることができ、自分たちの声や取り組みで災害を防ぐことについても考えることができた。

(3) 校区内の断層と地震の対策

市の防災課の方には、丹波篠山市にはいくつかの活断層があり、城南小校区にも御所谷断層が存在することも教えていただいた。市の災害備蓄品は、御所谷断層で震度6の地震が起きた時を想定されている。避難者想定人数 2507名。備蓄品には、赤ちゃんのおむつやミルクも備蓄されており、赤ちゃんから大人までを考えて準備されていることを知った。しかし、丹波篠山市民 39,932人に対して、避難者想定人数が 2,507人分であることから自らの対策も必要であることに気づいた。自分たちでできる対策とはどのようなかを調べ考えた。その中で、家庭での備蓄品、備蓄の方法、地域で予想される災害を知ること、災害が起きたときにどうするべきかを考えておくことが大切であることに気づき、調べ、まとめることにした。兵庫県災害対策センターに見学に行った。そこで自助・共助・公助の話を伺い、阪神淡路大震災での自助・共助の救助率が 97,5%であることを知り、地域コミュニティーの大切さについて考えることができた。近所の人にあいさつをする、困っている人が居たら声をかけるなど、これまでしてこなかった地域とのつながりを持つことが大事であると感じ、行動に移そうとしている児童がいた。

2 実行する

(1) 学習発表会

防災について調べ分かったことを、地域の方や家族にも伝えたいという思いが高まり学習発表会で発表することになった。丹波篠山市に起こったこれまでの災害、篠山川の京口橋での取り組み、校区にある断層について、丹波篠山市の備蓄品と自分たちでできる備蓄対策、ローリングストック法によって無駄な食料を出さず、無理なく続けていける防災を伝えた。そして、ハザードマップや丹波篠山市の防災マップを紹介していざという時の対策が必要であること。最後は、自助・共助・公助の3つの連携が地域の防災力を高めることを伝えた。

(2) 家族との対話

学習発表会のあと保護者の方にアンケートに取り組んでいただき、家庭での防災について、家庭で話し合うきっかけとなった。備蓄品準備を進められる家庭や、長い間備蓄品を整理できていなかったのが賞味期限など確認する家庭があったり、避難場所を確認する家庭があったりと、子どもたちの発信によって家族での対話が生まれ防災対策の輪が広まった。子どもたちからの発信によって家庭が動き、またこの流れで防災の輪が広まってくれることを願っている。



城南小学校の取り組み テーマ 気づき・考え・実行する～ふるさと防災教育～

- 気づき 考える
- ① 社会科「自然災害から人々を守る活動」
 - ② 総合的な学習の時間
 - ・丹波篠山市の災害
 - ・近隣地域の災害と対策
 - ・校区内の断層と地震の対策
- 実行する
- ① 学習発表会
 - ② 家族との対話

気づき・考える 丹波篠山市の災害



気づき・考える 近隣地域の災害と対策



気づき・考える 近隣地域の災害と対策

明治40年 京口橋折損



- 1907年 台風 橋の前壊
- 1921年 台風 橋の流失
- 1930年 豪雨 橋の流失
- 2013年 台風 内水氾濫

気づき・考える 近隣地域の災害と対策

丹波篠山市の防災対策 (市役所の方)



気づき・考える 近隣地域の災害と対策

これまでの 浸水被害を防ぐ対策



気づき・考える 近隣地域の災害と対策

新しく設置された 排水ポンプ場



7月9日
竣工式の様子



気づき・考える 校区内の断層と地震の対策

被害想定予測
避難者数
2,507人
電気の支障
3～7日間
水道の支障
1～3日間



気づき・考える 校区内の断層と地震の対策

丹波篠山市の備蓄品



気づき・考える 校区内の断層と地震の対策

想定避難者数 < 篠山の人口
2,507人 < 39,932人

気づき・考える 校区内の断層と地震の対策



気づき・考える 校区内の断層と地震の対策

兵庫県防災対策センター



阪神淡路大震災時

自助・共助の救済率
97.5%



地下連絡通路
災害時には、避難通路としても活用

実行する 学習発表会「防災探偵団」
～児童スライド～

学習発表会



実行する 学習発表会「防災探偵団」
～児童スライド～

ローリングストック法
って知ってる？

備蓄した物を
むだにしないで、
使うこと



実行する 学習発表会「防災探偵団」
～児童のようす～



丹波篠山市防災マップ



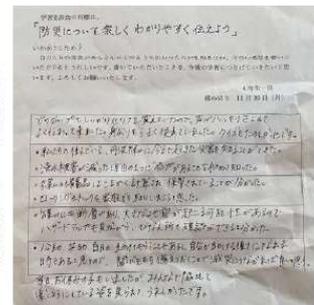
兵庫県ハザードマップ

実行する 学習発表会「防災探偵団」
～児童のようす～



保護者さんからの返事

- 防災について、写真やクイズで分かりやすく説明できていました。平成30年の大雨のことも、もう忘れていたけど、川の近くに住んでいるので怖かったのを思い出しました。家で防災用品や水や食糧などあまり用意していませんが、市の備蓄品が250人分と聞いて、ちゃんと自分で用意しとかないとと思いました。
- みんなのプレゼンテーションは、とても分かりやすく見て楽しかったです。丹波篠山市であった、災害や対策、これから予想される危険、それに対してどのような取り組みがなされる、自分たちがどのように備えればいいのか、とても勉強になりました。家でも防災について話し合ったり、用意しようと思いました。



兵庫県立国際高等学校

「障がい者（聴覚障がい者）が自分らしく暮らせる街づくり」

《活動の要旨》

本校は国際科のみからなる高校であり、英語など言語・コミュニケーションに興味がある生徒が多い。そのことから手話に興味を持ち始めたことがきっかけで、聴覚障がいについて研究をすることとした。芦屋市ろうあ協会の協力を得て、アンケートを行い、実態を調査した。また、同協会より講師を派遣して頂き、聴覚障害について・手話について勉強会を実施した。そこからわかったことは以下の通りである。

- ・音声情報が多く、視覚情報を頼りにする聴覚障がい者にとっては情報を得るのが難しい。特に災害時・緊急時の情報伝達が不安である。
- ・手話ができる人が配置されている施設（特に公共施設）も多い。ほとんどの施設・店舗で筆談対応してくれている
- ・「筆談対応します」という POP があることで、その施設・店舗に心理的に入りやすい。

以上のことより、聴覚障がいについてのリーフレット・「筆談対応します」の POP を作成し、芦屋市内の店舗・施設に配布することにした。リーフレットには、①聴覚障害について②聴覚障がい者が困っていること③今日からできる気配り、心配りを記載した。

JRC 部員が手分けをして、2月より芦屋市内の施設・店舗に配布を開始する予定である。今回の活動の内容をポスターにまとめ、校内掲示し、JRC 部員以外にも聴覚障がいについて啓発活動を行いたいと考えている。

本テーマとは離れているが、街頭募金活動にも取り組んだ。これまで取り組んだ街頭募金活動は以下の通りである。

- ・ウクライナ人道危機救援金
- ・アフリカ急性飢餓等支援金
- ・イスラエル・ガザ人道危機救援金
- ・能登半島地震災害義援金
- ・神戸ウクライナ避難民支援金
- ・トルコ・シリア南部地震救援金

募金活動を通して、生徒が学んだことは非常に多いと感じている。世界で起きている事象に興味関心を持つこと、募金活動中にかけてもらった暖かい言葉、一人一人の寄付額は小さくても、それを集めればまとまった額になり、支援に変えることができることなど授業では学ぶことができない学びが多くあった。

また、神戸ウクライナ避難民支援金に関しては、募金活動と合わせて救援物資の寄附を文化祭で呼びかけた。段ボール15箱分の物資と支援金を神戸定住外国人支援センターに寄付した。トルコ・シリア南部地震救援金では、募金活動後に JICA 関西を訪問し、実際にレスキューチームの一員として現地に派遣された職員の方の話を聞く機会を設けた。

イスラエル・ガザ人道危機救援金では街頭募金活動の実施前に本校の地歴公民科の教員に勉強会を実施してもらった。募金活動に合わせて行うことで、効果が得られたと思う。



青少年赤十字研究推進校発表

2024年1月28日
発表者 兵庫県立国際高等学校JRC部
2年次 岩崎芽実・川合稀子



障がい者(聴覚障がい者)が自分らしく暮らせる街づくり

理由① 「言語やコミュニケーションに興味を持つ生徒多い
→ 手話に興味！」



理由② 総合的な探究活動で行った「SDGsマイアクション」



研究内容

- ① アンケートの実施(実態調査)
- ② 聴覚障がいについての啓発リーフレット作成
- ③ 「筆談対応します」のPOPとボールペンの作成
- ④ 芦屋市内の店舗に配布

研究内容①アンケート(実態調査)



- 芦屋市ろうあ協会に依頼
＜質問項目＞
- 耳が聞こえなくなったことで、気づいたことや感じたことはどのようなことですか。
 - 公共の施設で何か改善して欲しいことはありますか。
 - 普段のコミュニケーションで使用している方法を教えてください。
 - 「筆談対応します」のPOPがお店にあることで、心理的に入りやすくなりますか。

研究内容①アンケート(実態調査)

『耳が聞こえなくなったことで、気づいたことや感じたことはどのようなことですか。』

- ・ 音楽、会話、映画など聞こえない。
- ・ 駅のホームで事故、遅延のアナウンス(放送)があつて困った。
- ・ 特にありません。(音声→文字への変換アプリがあるので)
- ・ 生まれつき聞こえません。学校で何度も口話を習ったので助かっている。
- ・ どのような情報が流れているのが気づけない。
- ・ 地域や周辺の人との話(雑談など)、情報などがわからないので孤立する。
- ・ 音声による情報が多すぎる(文字情報が少ない)

研究内容①アンケート(実態調査)

『公共の施設で何か改善して欲しい点はありますか?』

- 災害時、避難所で情報が十分に伝わるのが心配
- 今のところ、特にありません。
- 手話ができる人が多いから「ありがとう」と伝えている。
→ 銀行や病院にも手話ができる人がいてくれたらと思う。
- アナウンス(音声)だけでなくデジタルサイネージや案内ボードを使っ
て欲しい。
以前トイレ休憩で並んでいる時に、すごい行列だった。スタッフの人が「歩ける方は少し
遅いけど、向こうにもトイレがあります」と案内していた。自分は歩けるが、その情報が
わからずその場に並んでいたのも、歩きにくい人も並ぶのに時間がかかっていた。
- 文字をはじめとする視覚情報(手話など)を増やして欲しい。

研究内容①アンケート(実態調査)

『普段のコミュニケーションで使用している方法を教えてください』

- 手話
- 筆談
- 談話、口話
- アプリ (Group Transcribe / UDトーク / YY文字おこし)

研究内容①アンケート(実態調査)

『筆談対応します』のPOPが店舗に置いてあることで、その店舗に心理的に入りやすくなりますか?』

- POPがどこでも置くようになっているのはありがたいと思う。ほとんどの
お店が筆談対応してくれている。
- 他のろう者(=生まれつき耳が聞こえない人)の意見に任せます。
- 店の人は筆談してくれますので、「筆談で対応します」の紙が置いてあると入りやすい。
- 入りやすくなると思います。レジなどでコミュニケーションボードがあれば、なお安心して買い物できると思います。
- はい。とくに中途難聴の方にとっては助かるかと思えます。

研究内容①アンケート(実態調査)

アンケートからわかったこと

- 音声情報が多く、視覚情報を頼りにする聴覚障がい者にとっては情報を得るのが難しい
- 特に災害時・緊急時の情報伝達が不安
- 手話ができる人が配置されている施設(特に公共施設)も多い
- ほとんどの施設・店舗で筆談対応してくれている
- 「筆談対応します」というPOPがあることで、その施設・店舗に入りやすい。



研究内容②聴覚障がい啓発リーフレット

目的

聴覚障がいは目に見えない障がいであるため、気づかれにくい。

「どのような配慮をすれば、聴覚障がい者にとって住みよい町にできるのか」を考えるきっかけとするため。



研究内容③「筆談対応します」POP作成&配布

目的

すでに筆談対応する施設・店舗は多いが、それを視覚情報(文字)で発信することで、聴覚障がい者持つ人たちが施設・店舗を利用しやすくなる

ように心理的ハードルを下げる



全日本ろうあ連盟HPより

研究内容④芦屋市内の店舗・施設に配布

2月より配布予定です。

研究を通して学んだこと

- 聴覚障がいについて知識を得ることで、とても身近な問題に感じるようになった。
- どのようなことに困っているのか、どのように手助けをしたらいいのかが分かったから、それを行動に移せるようにしたい。
- この研究を通して学んだことを自分達だけで終わらず、友達や周囲の人に広げていけたらと思う。

街頭募金活動の取り組み



聴覚障がいについての研究と合わせて、**街頭募金活動**にも取り組んだので、ここで発表させていただきます。

街頭募金活動の取り組み

これまで実施してきた街頭募金活動		
	寄付先	寄付額
ウクライナ人道危機救援金	日本赤十字社	¥575,120
神戸ウクライナ避難民支援金	神戸定住外国人支援センター	¥74,232
アフリカ急性飢餓等支援金	World Vision Japan	¥46,915
トルコ・シリア南部地震救援金	日本赤十字社	¥153,704
イスラエル・ガザ人道危機救援金	日本赤十字社	¥100,167
能登半島地震災害義援金	日本赤十字社	¥108,010

街頭募金活動と合わせて行った活動①



神戸ウクライナ避難民支援金

文化祭で救援物資の募集を呼びかけた。

→ 段ボール15箱分の救援物資を神戸定住外国人支援センターに届けることができた。

街頭募金活動と合わせて行った活動②



トルコ・シリア南部地震救援金

JICA関西を訪問し、勉強会を実施した。

→ 救援チームとして派遣されたJICA関西職員の河野氏の現地での話を聞いた。

街頭募金活動を通して学んだこと

- 募金活動に参加することで世界で起きている事象により興味や関心を持つようになった。
- 多くの方に寄付をしてもらったことで、社会には優しい人がたくさんいることに気づいたら、自分の心も温かくなった。
- 募金活動中に道行く人に言葉をかけてもらい暖かい気持ちになった。
- 一人一人の寄付額は小さくても、それを集めればまとまった額になり、支援に変えることができることを実感した。

これで国際高校の発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

神戸弘陵学園高等学校

「地域との連携による学びの構築について」

<活動の要旨>

1. 研究推進の目的

昨年度から「区民弁当プロジェクト」を立ち上げ、地域と連携して北区民の“思い出の味”を詰め込んだお弁当を開発するプロジェクトを主軸に活動している。これは、“地域の繋がりの強度＝地域防災力”として、地域との繋がりの重要性と必要性を感じたことに起因している。そして、活動を通して、地域連携をより深め、多くの繋がりを獲得する狙いとともに、地域との連携を通じた「探究型・PBL型の学び」を構築することを目的としている。

2. 活動の概要

お弁当プロジェクトの活動は、6段階に分けて活動した。その中から特筆すべきことを以下にあげる。

① アンケートの配布

アンケートは紙媒体のものだけでなく、グーグルフォームで作成したWEBのものを、チラシ形式で神戸電鉄の駅並びに区役所に設置した。また、生徒のアイデアを基に校長会で許可がおりた小・中学校に配布アンケートを配布するとともに、街頭アンケートも生徒が企画し、2回実施した。

② アンケートの回収と集計

WEBでのアンケートなのでほとんどのアンケートの回収は不必要であったが、駅や区役所に設置したものに関しては、登下校時に生徒が回収し、不足しているアンケートを補充した。また、回収したアンケートの集計も紙媒体のものは生徒が集約したが、WEBのものは、エクセルシートにうつし集約した。

③ お弁当のおかずの選定

約850のアンケートの回答を集約して、お弁当のおかずを選定した。アンケートの回答数が多いものだけでなく、生徒の意見で、栄養バランスや地域の特産が入っているものを加味してはどうかとでた。今後、選定したおかずの試食会を経て3月に販売したいと考えている。

3. 研究の成果と課題

昨年度の研究活動の中で、地域連携が地域防災の向上につながるという観点を持つことができ、それを元に本研究を構成した。結果として、地域との活動を構築できたこと、連携する地域が増え始めていることが大きな成果だと考えている。

一方で、まだ生徒が自分事として活動に参加できていない側面が残る。今後は、どのように生徒を巻き込んでいくのかよりよい方策を考え、改善に努めたい。

地域との連携による 学びの構築について

神戸弘陵学園高等学校

細淵 清貴

活動の目的

- ・地域との連携を強化
- ・地域との繋がりを増やす
- ・地域と連携した学びを構築する

活動事例

- ・現代社会ゼミ
- ① 区民弁当プロジェクト
- ② 大沢地区との連携構築

大沢地区との連携

- ・稲刈り体験に参加
- ・1年の現代社会ゼミで6名の生徒がテーマとして設定

<課題と展開>

- ・具体的な連携がまだ構築されていない
- ・商品開発や地域の課題解決を通じた連携を検討中

区民弁当プロジェクト-1

<昨年度の活動>

- ① アンケートの作成（グーグルフォーム）
アンケート項目
年齢・北区民歴・居住エリア
最寄りの神戸電鉄の駅
思い出の味/好きな家のごはん

区民弁当プロジェクト-2

<本年度の活動>

- ① アンケートの配布と収集
- ② アンケートの集計と分析
- ③ お弁当のおかずの選定
- ④ 選定したおかずの試食（2月～）
- ⑤ お弁当の販売（3月予定）

区民弁当プロジェクト-3

<本年度の活動>

- ① アンケートの配布と収集
 - ・神戸電鉄の駅・区役所に設置
 - ・小・中学校へ配布（生徒からの案）
 - ・街頭アンケートの実施（生徒からの案）

区民弁当プロジェクト-4

<本年度の活動>

- ② アンケートの集計と分析
 - ・神戸電鉄の駅に生徒自身が回収に行く
 - ・街頭アンケートで約90筆の回答を回収
 - ・Webでは約750筆の回答があった。
- ➔ 回答を多い順に分けていく作業

区民弁当プロジェクト-5

<本年度の活動>

- ③ お弁当のおかずの選定
 - ・たまごやき・からあげ・うれしおトマト
 - ・肉じゃが・きんぴら・ポテトサラダ
 - ・梅じそささみ・ひじき煮・そばめし
- ➔ 回答が多かったものと栄養バランスを加味して選定した

区民弁当プロジェクト-6

<本年度の活動>

- ④ おかずの試食会
 - ・食堂を運営する業者と連携する
 - ・味付けを変えて試食をしてどのおかずをお弁当のおかずにするのか決定する
- ⑤ 販売（3月に4回、20食ずつ）
 - ・神戸電鉄のイベントスペースを利用する

区民弁当プロジェクト-8

<学びとしての成果>

- ② 活動の中で生徒自身が得手・不得手を発見
 - ➔ 2学期の段階でアンケートを実施
 - 街頭アンケートは苦手
 - 初対面の人へのコミュニケーションは苦手
 - ↓
 - 分析作業や細かい作業は得意

区民弁当プロジェクト-10

<地域連携としての成果>

- ・グーグルフォームによるアンケートなど新しい知見の獲得
 - ➔ 小・中学校に配布することによって一定数の回答が得られる
 - ➔ 神戸電鉄の駅などに配置でも30筆ほどアンケートが集まる

今後の展開

- ・コメントから見えること
 - 「自助－共助－公助」の概念の重要性
 - ➔ 地域である程度完結しなければ、助かる命も助からない
 - ➔ 他府県からの限度を逸した共助は公助の妨げになる可能性

区民弁当プロジェクト-7

<学びとしての成果>

- ① 授業内ではどの生徒もしっかりとアイデアを出して自分事として頑張ってくれた。
 - ➔ 教師がルールを引き生徒を振り回している形式 = 探究的ではない
 - ➔ 生徒がアイデアを出し、教師を振り回す形式 = 探究活動？

区民弁当プロジェクト-9

<地域連携としての成果>

- ・連携活動を通して、本校ではということで区役所が様々なイベントや団体を紹介してくれるようになった。
 - ➔ 連携先の拡充と強化
 - ➔ 北区山田地区に接触済み

今後の展開

元自衛隊芸人やすこのコメント

「助けるぞとって現地に行かれる人もいますが、そのとき現地の民泊をつかったり、ガソリンも現地のもをつかったりしている。自衛隊はすべて自衛隊で賄えるのがメリットで、現地の人に迷惑がかからない支援が必要。」

今後の展開

昨年度の発表で

地域との繋がり強度 = 地域防災力として、地域との繋がり的重要性を強調

- ① 地域との繋がりを強化していく
- ② 震災30年を機に防災への連携強化を模索

ご清聴ありがとうございました。

青少年赤十字研究推進校設置要項

日本赤十字社兵庫県支部

1 趣旨

青少年赤十字加盟校（以下「加盟校」という）における青少年赤十字活動の充実振興を資するとともに、未加盟校の啓発をはかり、もって青少年赤十字の充実振興を期するため、青少年赤十字研究推進校（以下「研究推進校」という）を設け、研究を委嘱する。

2 研究主題

研究主題は、次の活動に関するものとする。

- (1) 赤十字募金に関する活動
- (2) 防災に関する活動
- (3) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動
- (4) 献血推進に関する活動
- (5) 奉仕活動に関する活動
- (6) 社会福祉施設における活動
- (7) 老人福祉の向上のための活動
- (8) 障がい者福祉の向上のための活動

3 研究推進校の指定及び決定

- (1) 研究推進校は、日本赤十字社兵庫県支部（以下「支部」という）が当該支部管内青少年赤十字加盟の小学校、中学校、高等学校から計6校を指定する。
- (2) 研究推進校の指定期間は1年間とし、原則として最長3年まで継続して申請することができる。
- (3) 研究推進校の指定については、兵庫県青少年赤十字協議会総会において決定する。

4 研究推進校の指定の申請

支部は毎年研究推進校の公募を行い、指定を受けようとする加盟校は、「青少年赤十字研究推進校指定申請書」(様式第1号)により4月末日(厳守)までに支部に申請する。

5 研究推進校の助成金の申請

- (1) 研究推進校の指定を受けた加盟校は、指定後速やかに「青少年赤十字研究推進校助成金交付申請書」(様式第2号)に、「助成金収支予算書」(様式第3号)を添えて、支部まで申請する。
- (2) 支部は研究推進校の研究等に必要な経費(別表参照)について、年度あたり8万円を上限として助成する。

6 研究発表及び報告

研究推進校は、「青少年赤十字研究推進校活動状況報告書」(様式第4号)及び「助成金収支報告書」(様式第5号)を、翌年度4月末日(厳守)までに支部に提出する。期日までに提出されない場合は、翌年度の申請を受け付けない。
また、活動状況等の報告を支部が開催する「兵庫県青少年赤十字研究会」において、研究発表を行う。

付 則

本要項は、昭和57年4月1日制定実施する。

本要項は、平成元年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成18年12月20日一部改正実施する。

本要項は、平成19年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成20年11月1日一部改正実施する。

本要項は、平成22年1月5日一部改正実施する。

本要項は、平成26年12月20日一部改正し、平成27年4月1日から実施する。

本要項は、平成27年12月15日一部改正し、平成28年4月1日から実施する。

青少年赤十字研究推進校一覧（過去3カ年）

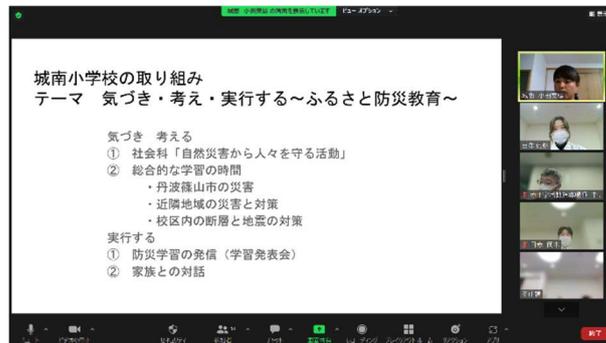
日本赤十字社兵庫県支部

年 度	学 校 名	研 究 主 題
R 3	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
	丹波篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」
	兵庫県立柏原高等学校	①防災教育の推進 ②丹波地域在住外国人・韓国との交流の推進 ③丹波市・柏原町の観光促進
	神戸弘陵学園高等学校	震災資料を基にした防災学習の基礎構築について
R 4	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
	丹波篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」
	兵庫県立柏原高等学校	①防災教育の推進 ②丹波地域在住外国人・韓国・台湾との交流の推進 ③丹波市・柏原町の観光促進
	神戸弘陵学園高等学校	震災資料を基にした防災学習の基礎構築について
R 5	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
	丹波篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」
	兵庫県立国際高等学校	障がい者（聴覚障がい者）が自分らしく暮らせる街づくり
	神戸弘陵学園高等学校	地域との連携による学びの構築について

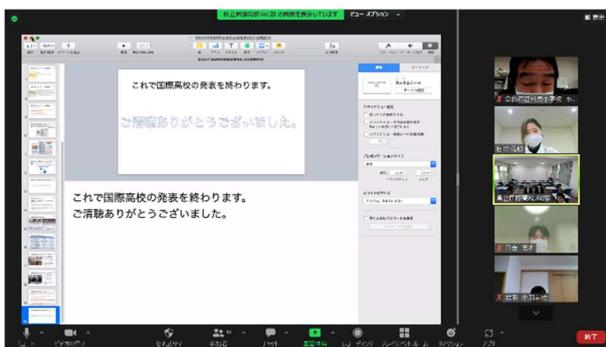
研究会 Web 風景



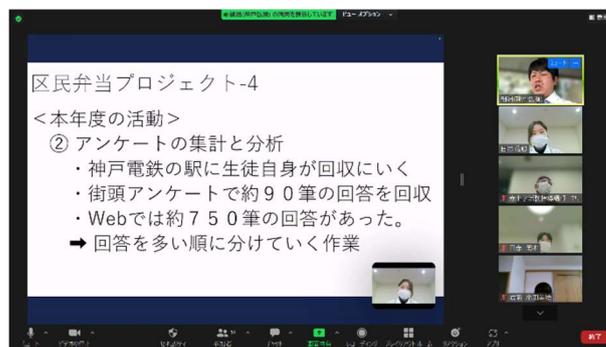
芦屋市立精道小学校活動報告



丹波篠山市立城南小学校活動報告



兵庫県立国際高等学校活動報告



神戸弘陵学園高等学校活動報告



 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society